



■ 阿武町の概要

① 阿武町とは

阿武町は山口県の北部に位置し、北は日本海、三方は萩市に接し、人口約3,000人の小さな町です。

海岸部は北長門海岸国定公園に属し、町内全域が、阿武火山群により形成され、日本ジオパークに指定され、豊かな自然に恵まれた町で「森里海と生きる町」を目指しています。この春、NPO法人「日本で最も美しい村」連合にも加盟しました。

本町の基幹産業である第一次産業（特産品はキウイ、スイカ、日本海の新鮮な魚介類、無角和牛など）を中心とした暮らしは、大地の恵みを楽しむことで成り立ってきました。



本町において地方創生に取り組む際には、町本来の特性であるこれらの自然環境を最大限活かし、未来へ継承する必要があると考え、足元にある資源を今一度磨き上げ、現代に見合った形で「まち・ひと・しごとの創生」を推進しています。



『①まちの縁側推進プロジェクト』（2019～2021年度）

町の魅力を知り、町内への人の流れをつくることで移住や定住を促すプロジェクトです。主には、宿泊滞在施設がほとんどない町内に、町の基幹産業である第一次産業をはじめとした生産者の所得向上を目的とした道の駅の売上増、まちのくらしを体験しミニマムな移住を体験することを目的とした滞在拠点施設（ABUキャンプフィールド）を2022年3月12日にオープンしました。

『②森里海新たなしごと創出プロジェクト』（2019～2021年度）

町製品の価値向上や販路拡大、第一次産業への就業促進などを目的としたプロジェクトです。山に木を搬出できる道を作り、小規模で持続的な林業経営を行う「自伐型林業の推進」や、漁業者の方々に魚の扱い方、締め方を伝授し魚を適正な価値で販売を推進することを目的とした「水産販売力向上事業」などを実施しました。

『③無角和種との出会い創出プロジェクト』（2020～2022年度）

和牛4品種のうちの1品種で全国で約200頭、そのうち70%が阿武町で育つ「無角和種」の価値を向上し今後の無角和種との未来をつくるためのプロジェクトです。牛との距離を近づけるための体験プログラムや魅力ある牛づくりのためのブランド化などを実施しました。

『④地域内経済循環促進プロジェクト』（2022年度～）

①で造成したABUキャンプフィールドを拠点とし、さらなる町内の経済循環を促すことを目的としたプロジェクトです。主に、地域通貨の導入、木の駅の立ち上げ、DMO的組織（阿武町版DMO）「阿武町観光ナビ協議会」の支援を実施しています。



※①～③における実施体制図

「食」という圧倒的な地域資源を軸に。山口県阿武町にオープンした「ABUキャンプフィールド」にみる地方創生



<https://lab.smout.jp/yamaguchi/abu-cho/202205>

人口3,000人のまち、山口県阿武町。若者が次々と移住する理由とは？



<https://lab.smout.jp/yamaguchi/abu-cho/202206>



2022.3.12グランドオープン
阿武町まちの縁側拠点施設「ABUキャンプフィールド」

コンセプトは

“キャンプを目的としないキャンプ場”



なぜ、キャンプ場を作ったのか

【課題1】 少子高齢化、人口減が加速

- ・ 全国に比べ40年早いスピードで人口減が進んでおり、急激な人口減少を緩やかに。
- ・ 阿武町は人口減を前提とした地域社会の再設計を行う必要があります。

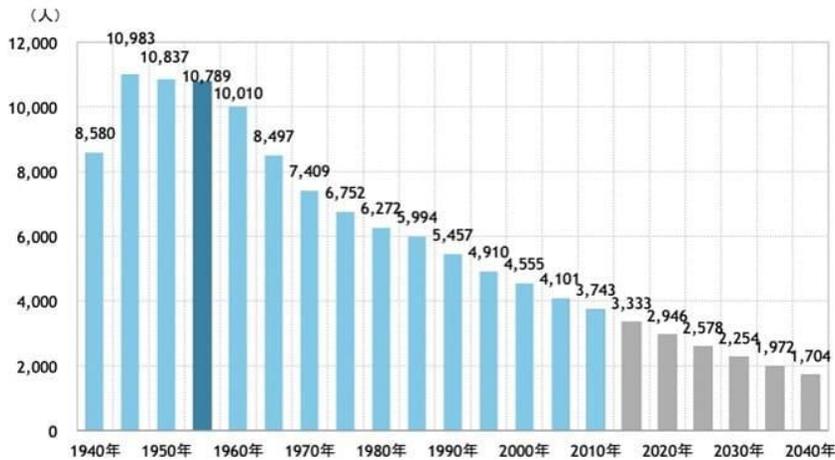


図1 阿武の総人口の推移

出典：総務省 (国勢調査, 1940~2010年)

国立社会保障・人口問題研究所 (2015~2040年)

※1950年より前の数値は、旧奈古町・旧福賀村・旧宇田郷村の合計

【課題2】 人口減少により、基幹産業の維持が困難に

- ・ 基幹産業の高付加価値化
- ・ 町内、近隣圏内での消費拡大
- ・ 後継者育成、確保





選ばれる町に

この町の課題を解決するには、阿武町に今住んでいる方、これから住もうとする方に“選ばれる町”になることが必要です。

阿武町では2007年から本格的に移住促進事業をスタートさせ、毎年10件程度の移住があり、一定の成果を出していますが、移住・定住を加速させることが課題解決につながります。

定住及び移住先として“選ばれる町”になるためには、まず阿武町の魅力を知ってもらうこと（関係人口）が重要です。そこで2018年に、“選ばれる町”をつくるためのキャンプ事業構想が始まりました。『ABUキャンプフィールド』を“まちの縁側”として、ひと・ものの流れを整え、阿武町の魅力に触れてもらい、地域内経済循環を促進していきます。



・ひとの循環

ABUキャンプフィールドを集客ツールと捉え、阿武町を知るきっかけ作りを行います。阿武町の第一次産業を体験プログラム化し、町の奥まで来訪者を誘客し、魅力に触れ、再来訪を促し、移住につなげます。

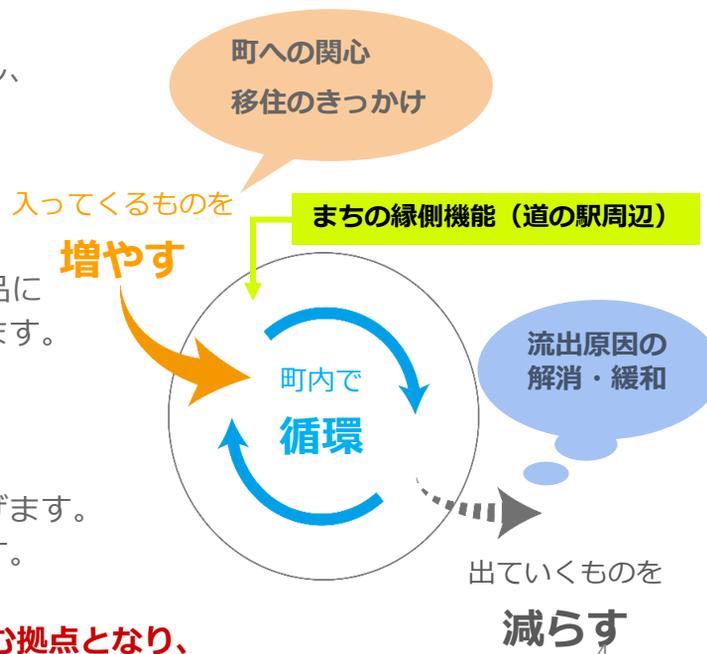
・ものの循環

ABUキャンプフィールドで阿武町の特産品に触れる仕掛けを作り、ものの循環を図ります。

・お金の循環

体験プログラムや特産品に触れることで、これらの産業に関わる人々の収入につなげます。阿武町内・近隣圏内で経済を循環させます。

ひと・ものの流れを整え、地域内経済循環の実現

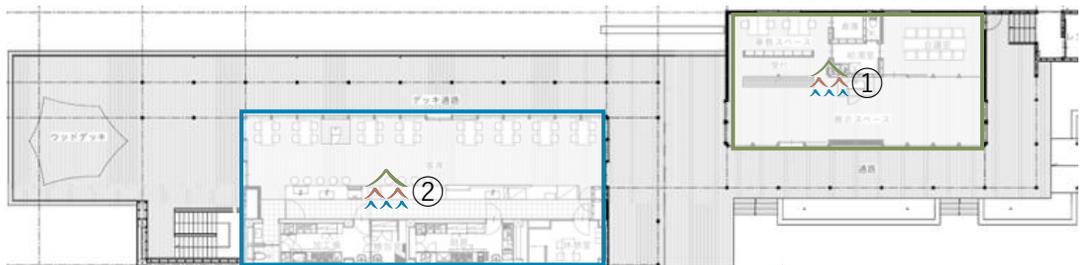


ABUキャンプフィールドが循環を生む拠点となり、
【課題1】 少子化を緩やかにし、【課題2】 基幹産業の維持を目指します。



ABUキャンプフィールド施設概要

ABUキャンプフィールドは阿武町の暮らしを伝える施設としてつくられました。施設は大きく分けて、①管理棟②ビジターセンター棟③キャンプフィールドの3つのエリアで構成されております。





①管理棟

ABUキャンプフィールドの受付、観光案内、暮らしの展示、会議室を完備。
阿武町最大の魅力である“暮らし”をコンセプトにした展示を行っています。



観光案内

観光窓口では、周辺観光案内、体験プログラムの受付だけでなく、民間観光組織「阿武町観光ナビ協議会（あぶナビ）」の活動拠点として町の観光をマネジメントする機能を持ち、ABUキャンプフィールドを活用した地域づくりに住民が参画するきっかけを創出します。

体験プログラム

キャンプフィールドの売りの一つである体験プログラム。
奈古、福賀、宇田郷地区の3地区での自然環境に合わせた暮らしを体験を通して遊びながら、暮らしの知恵や技術に触れることで第一次産業との距離が近づくこと、住民の活躍の場をつくることをねらいとしています。

【主なプログラム例】林業（スウェーデントーチ作り体験）、畜産業（無角和種と出会うツアー）、漁業（一日海士体験プログラム）等

会議室

どなたでも事前予約により利用することができます。（光通信Wi-Fi完備）

料金(税込)

3時間1,650円

6時間2,750円

1日3,850円



②ビジターセンター棟 SUNbashi CAFÉ

栈橋と太陽のSUNをかけた『SUNbashiCAFÉ（サンバシカフェ）』。

（営業時間 10:00～18:00、火・水曜定休）

食を通して森里海を伝えるため、阿武町産の食材を取り入れたメニュー、無角和牛のハンバーガーをはじめ、町内の農家の野菜・果物や漁師がとった値のつきづらい魚を使ったフード、ドリンクなどを展開予定です。

イートインスペースとして道の駅などで購入したものを持ち込んでの飲食も可能で、休憩等にもご自由にお入りいただけます。



②ビジターセンター棟 テストキッチン

料理教室や食のイベントを通して食材の使い方を学び、地元食材の消費を促進します。地元生産者の手取り向上や講師として町民の活躍の場を作ることを目的としています。

『ABCスタイル』から地域活性化企業人として人材を派遣し、施設運営管理や地域で料理教室を開催したい町民をサポートしていきます。



③キャンプフィールド

全62サイトのキャンプフィールド。最新の設備が揃っており快適にキャンプを楽しむことが可能で、隣接する道の駅には高品質な阿武町の一次産品が並ぶため、キャンパーは腕に寄りをかけた料理をすることもできます。新たなキャンパーという客層に道の駅の商品が売れることにより生産者の手取りが増えることや、キャンパー向けの商品を開発することも狙いとしている。



■阿武町暮らしの展示

阿武町全域が日本ジオパークに認定され、ABUキャンプフィールドではジオや暮らしが垣間見える展示を随所に設置。

- ・ ABUキャンプフィールド看板
 奈古で製造され暮らしを支えた耐火煉瓦（原料_阿武町産）を使用
 その他使用箇所_薪ストーブ床面、カフェ返却サイン
- ・ 無角レザーツール、荷物置き
 阿武町が最大産地の無角和牛の皮を特別に加工。町内の木材と合わせた。
 制作_中原木材（萩）
- ・ 手洗いボウル、カフェトイレ壁面
 “土集落”の土を使った陶器。制作_はしもと窯（阿武町）
- ・ テーブル、椅子
 天板_町内の木材（コナラ・ヒノキ）
- ・ サイト内サイン
 海岸で採取した花崗岩
- ・ サイト内通路
 美祢の石灰岩を使用
- ・ 建物
 構造材_流域材 外壁_焼杉 屋根_石州瓦



レンタル用品一覧 ※料金は全て税込み価格です。



テント・タープ



ランドロック
(インナーマット・グランドシート)
2ルーム / 大人4人がゆったり
¥19,800



アメニティドーム M
(マットシートセット)
大人2人 子ども3人程度
¥5,500



アメニティドーム L
(マットシートセット)
大人4人 子ども2人程度
¥6,600



HD タープヘキサ (L)Pro セット
(ポール・ペグハンマー・ソリッドステーク)
大人6人程度
¥4,400



アップライトポールセット
(190cm ポール・ロープ)
¥880

寝袋



オフトンワイド
¥2,200



SS シングル
¥1,100

IGT セット (キッチンセット) ¥7,700



- ・ IGT フレームロング (調理枠)
- ・ IGT830 脚セット (調理台脚)
- ・ リッドトレイハーフ (調理台)
- ・ ウッドテーブルW竹 (調理台)
- ・ プレートパーナー (コンロ)
- ・ ギガパワーガス250イソ (ガス缶)
- ・ マナイタセット L(まな板&包丁)
- ・ パンクッカー (フライパンセット)

IGT セットオプション

マルチファンクションテーブルロング (サイドテーブル) **¥2,200**

ランタンセット ¥4,400



- ・ ほおずき 3個 (電池付き)
- ・ パイルドライバー

焚き火台 PRO セット (BBQ セット) ¥5,500



- ・ 焚き火台 L スターターセット
- ・ 火ばさみ
- ・ 焼きアミステンレスハーフ PRO
- ・ 焚き火台グリルブリッジ L
- ・ 薪一束 (針葉樹) または 炭

焚き火台 L セット ¥2,200

- ・ 焚き火台 L スターターセット
- ・ 火ばさみ

※ 焚き火台 L スターターセット内容

- 〔 焚き火台 L・焚き火台ベースプレート L 炭床 Pro L・焚き火台 L 収納ケース 〕

ジカロテーブル

※焚き火台を中央に設置できるテーブルです。

¥2,750



マナイタセット L
¥880



ペグハンマー
¥550



焚き火台 (Coleman)
¥550



ロングテーブル
¥3,300



チェア (グレー)
¥1,100



ローチェア (カーキ)
¥1,100



ベンチ (グレー)
¥1,100



ほおずき (電池付き)
¥1,650



パイルドライバー
¥550

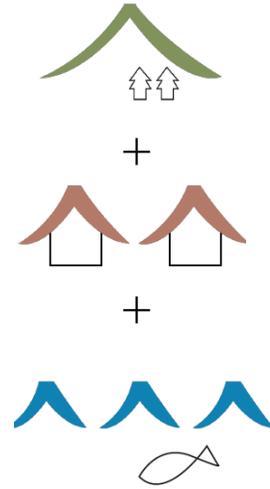
ポータブルバッテリー ¥2,200/1DAY (DC 最大 12V/3A AC 最大 100V/3A ⇒TOTAL 300W)



■ロゴ(補足)

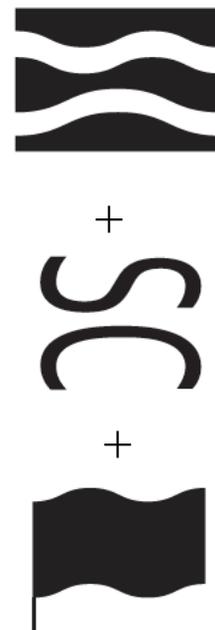
ABUキャンプフィールドのロゴは、森里海それぞれの象形化した記号(山・屋根・波)で構成しており、阿武町の頭文字Aにも、キャンプで立ち並ぶテントにも、寄り添う人々にも見えます。

また部首『ひとやね』をもつ新しい漢字にも見え、『新しいライフスタイルを提案するキャンプ場』という姿勢も表現しています。



SUNbashiCAFÉのロゴは、阿武町の雄大な森里海を育んだ記憶が積み重なった『地層』。ジオの恵みをベースに生まれる食材や、文化の豊かさを伝えるカフェ。地層の白地の部分は『SUNbashiCAFÉ』の頭文字である『S・C』を横にしたような模様になっています。

このロゴマークが阿武町の豊かさを発信し、人々が集まってつながる旗印となるようにという願いを込められています。





■ABUキャンプフィールド概要

AREA MAP



Google Map

所在地 : 〒759-3622 山口県阿武郡阿武町奈古2248-1 (道の駅阿武町隣接)

電話 : 08388-2-3000

利用時間 : 9:30~17:00 (デイキャンプ利用 10:00~16:00)

チェックイン13:00 チェックアウト11:00

休館日 : 毎週水曜

敷地面積 : 約23,000m² (サッカーコート約2.7面分)

サイト数 : 全62サイト

利用料金 : 電源区画サイト (B・Cサイト) 5,500円

フリーサイト (A・Dサイト) 4,400円

デイサイト (Eサイトほか) 2,750円

アーリーチェックイン 11時 1,650円/1区画

レイトチェックアウト 16時 1,650円/1区画

1区画5人まで 以降1人あたり550円

※町民割引 : サイト料金半額、レンタル料金3割引

SNS : Instagram @abucampfield_official

Facebook <https://www.facebook.com/106948447927171/>